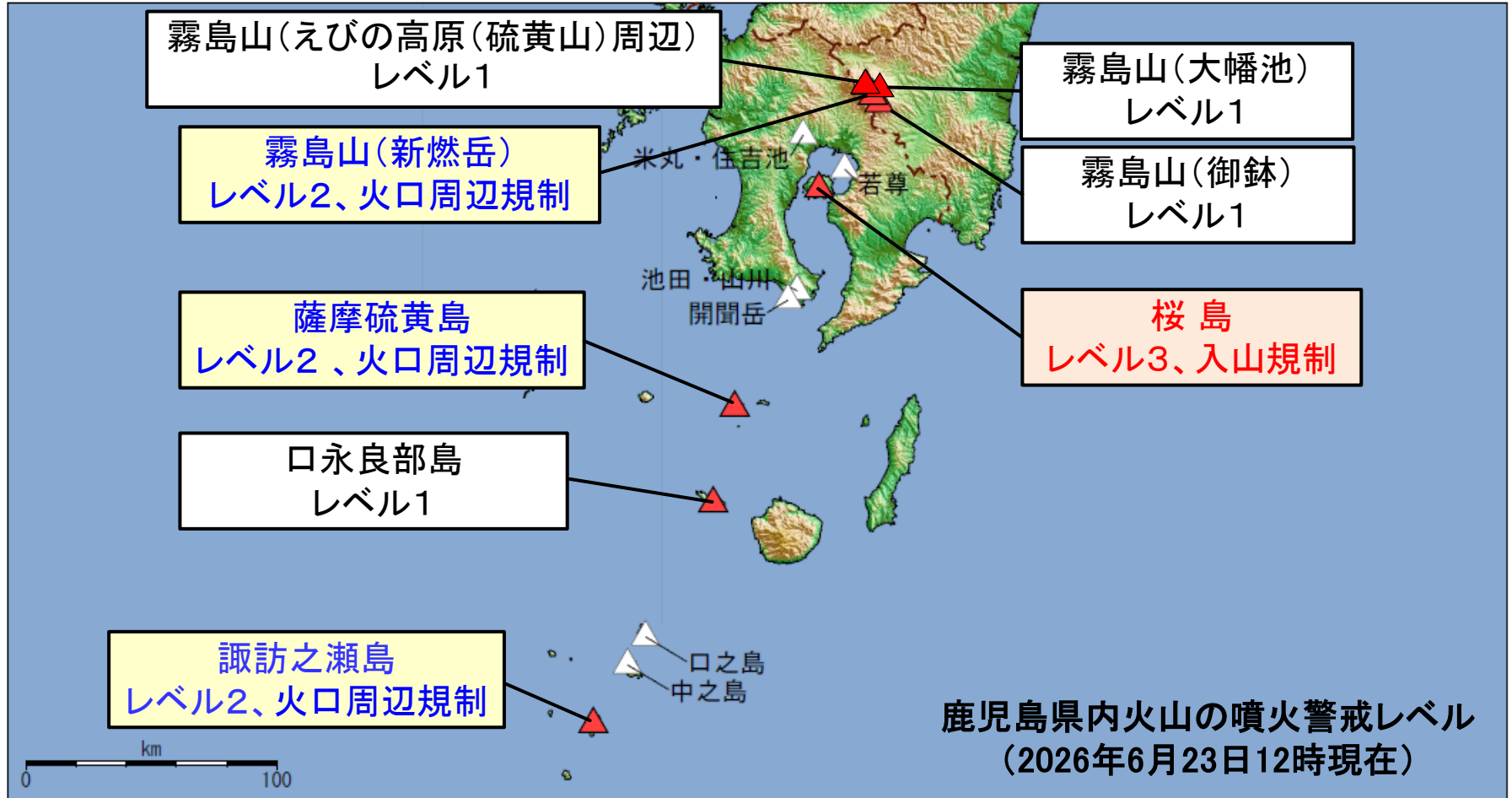


鹿児島県の火山活動概況

2026年5月～6月18日

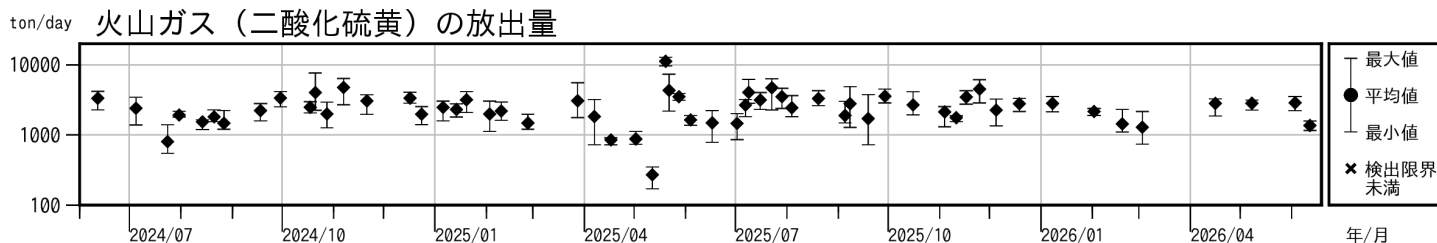
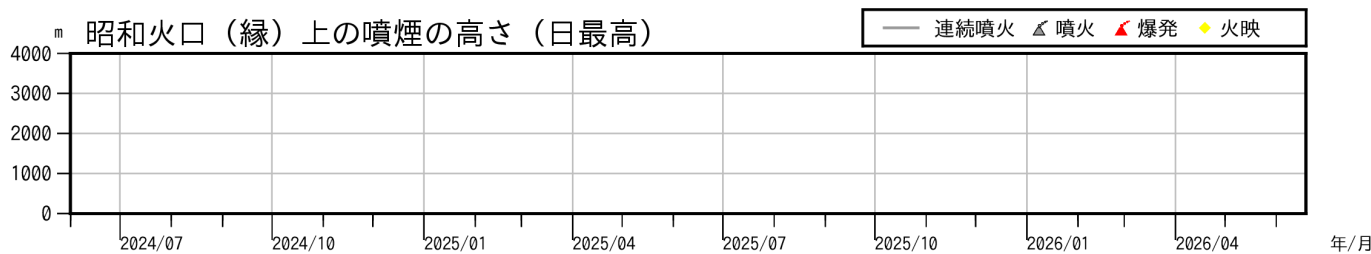
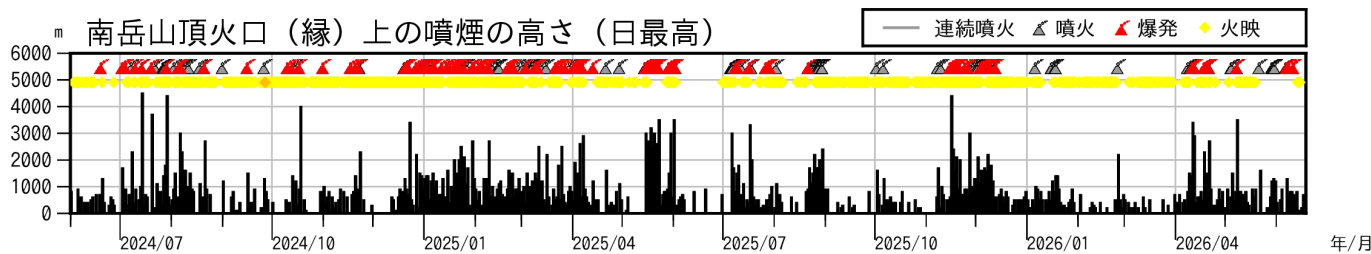


桜島 噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2022年7月27日20時00分発表)

5月以降の主な状況

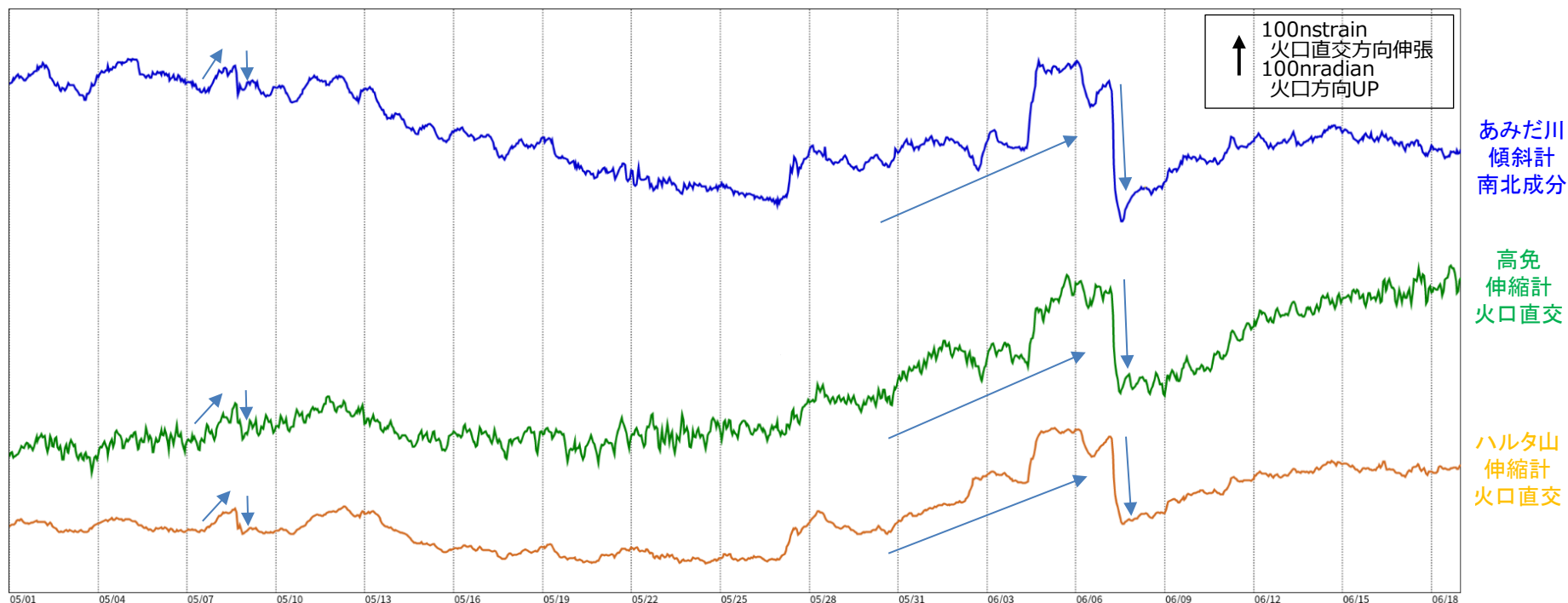
活動評価	始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態であり、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられる
噴火活動	[南岳山頂火口] 噴火回数 6月(18日まで):6回(うち爆発:4回) 5月:噴火11回(うち爆発:1回) 5月8日16時15分の爆発:噴煙は火口縁上3500m、大きな噴石は5合目、火砕流は約600m流下 [昭和火口](ごく小規模含め)噴火は発生せず
火山ガス	二酸化硫黄の放出量は1日あたり平均1400~2900トンと概ね多い状態



桜島 噴煙・火山ガス活動推移(2024年6月~2026年6月18日)

5月以降の主な状況

傾斜・伸縮 桜島島内の傾斜計及び伸縮計では、一部の噴火に伴い、噴火前の山体の膨張（隆起）及び噴火後の収縮（沈降）を観測した（図中矢印）。

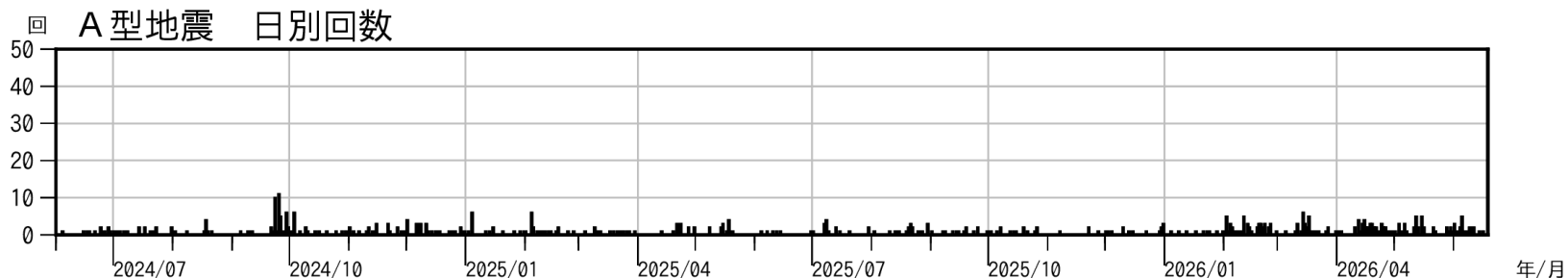
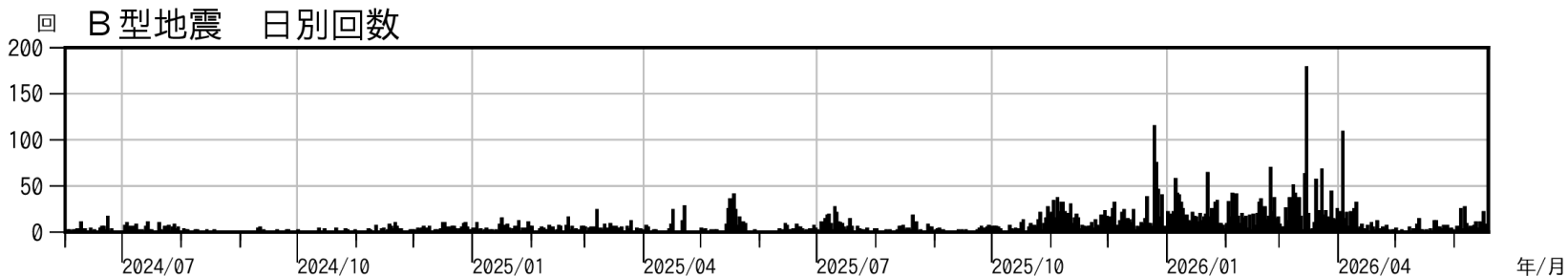


桜島 傾斜計及び伸縮計による地殻変動の状況（2022年5月1日～6月18日）

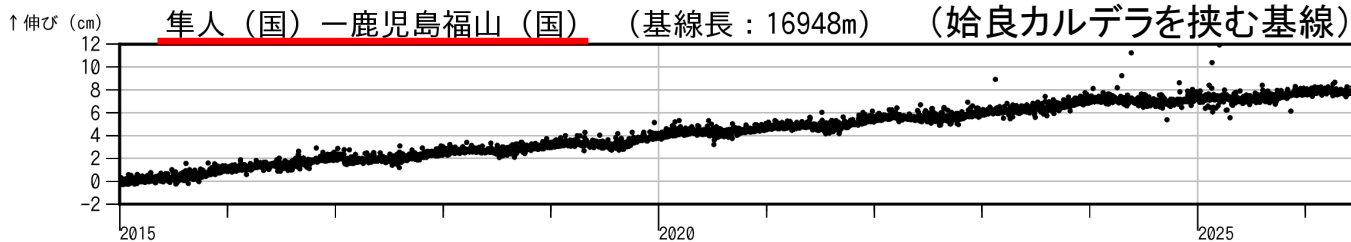
※各観測点のデータは潮汐補正を行っている。
※図の作成には、京都大学のハルタ山坑道、高免坑道の観測データを使用している。
※あみだ川観測点は山頂火口域のほぼ北に位置していることから、傾斜計南北成分の南側が上がる傾斜変動を火口側が上がる変動とみなして表示している

5月以降の主な状況

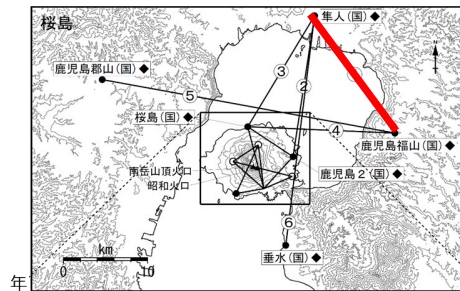
震動現象	火山性地震は少ない状態で経過
G N S S	長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられる



桜島 地震活動推移(2024年6月~2026年6月18日)



桜島 GNSS基線長変化図(2015年1月~2026年6月18日)

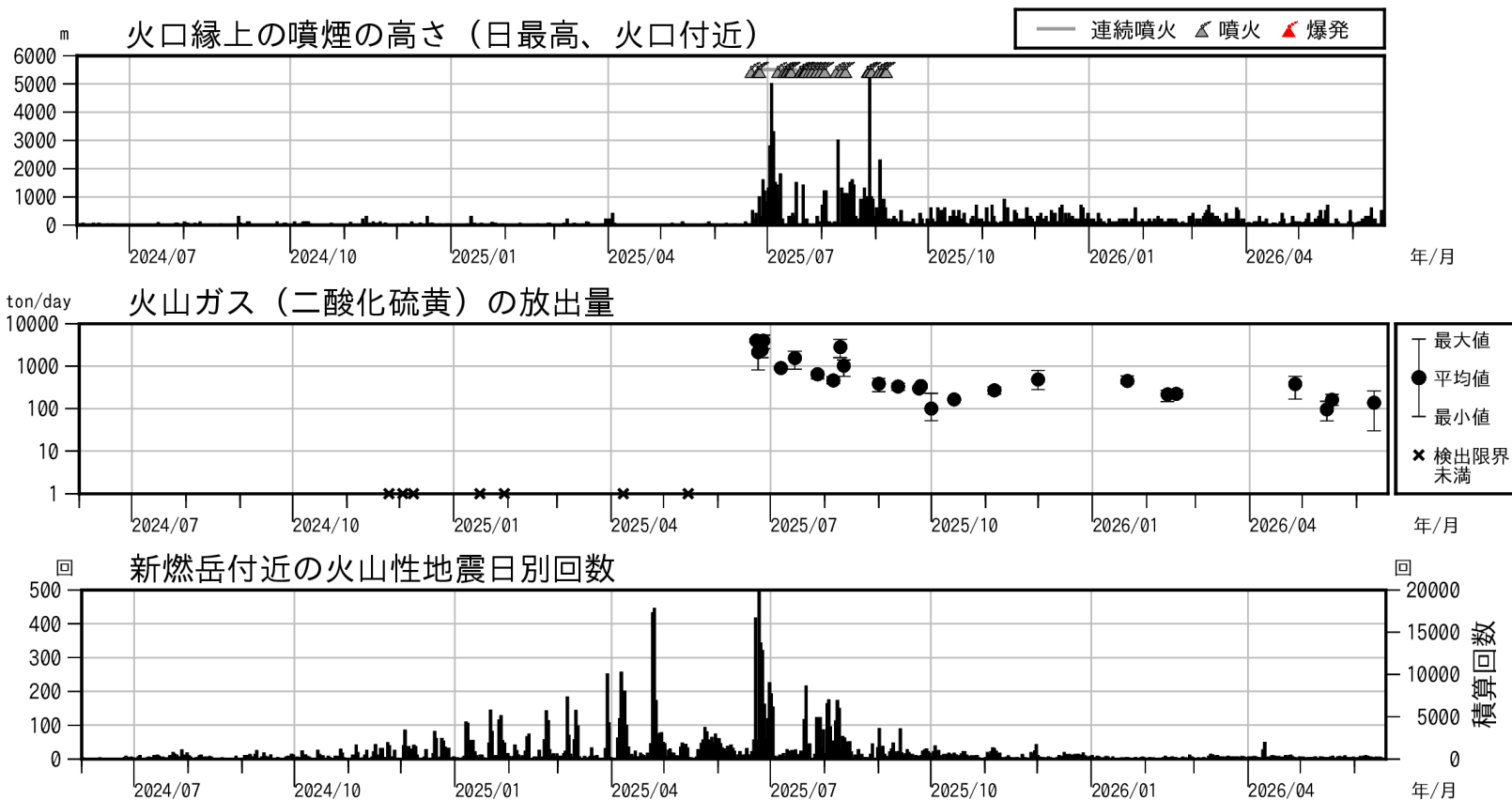


新燃岳 噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒範囲:火口から概ね2km
(2025年10月17日11時00分発表)

5月以降の主な状況

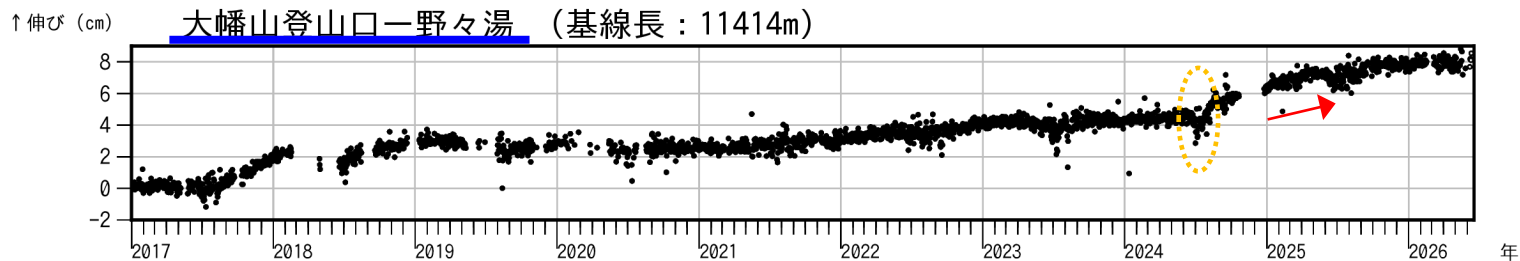
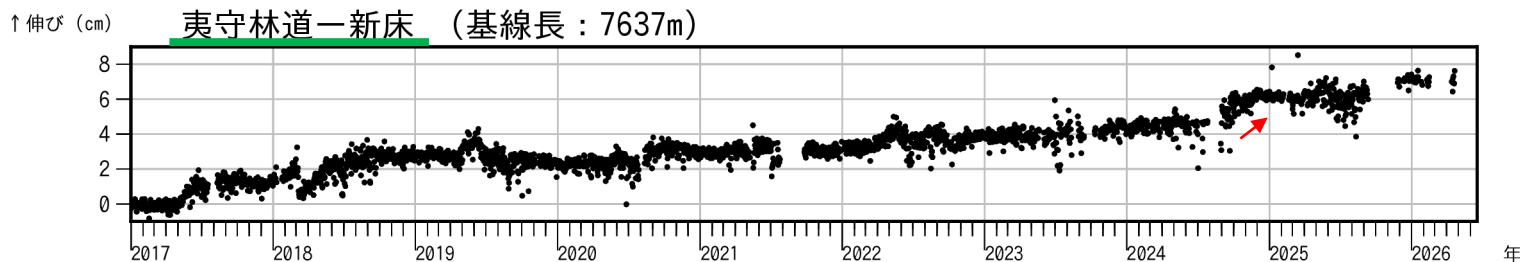
活動評価	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり数百トンの状態が継続、火山活動は高まった状態で経過
噴火活動	2025年9月8日以降、噴火は観測されていない
火山ガス	火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり平均100~200トンとやや多い状態
震動現象	火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過



新燃岳 火山活動経過図(2024年6月~2026年6月18日)

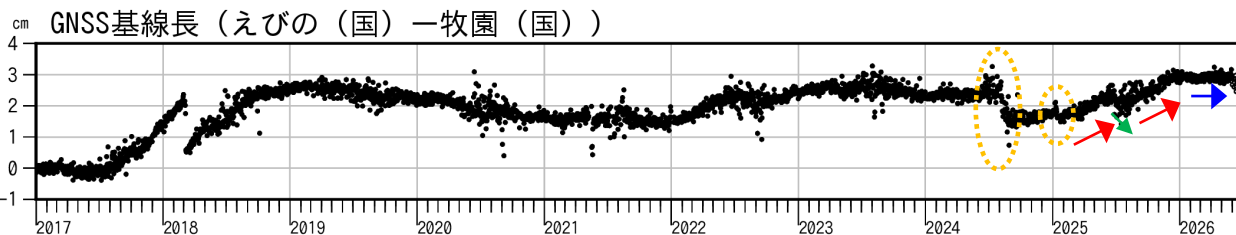
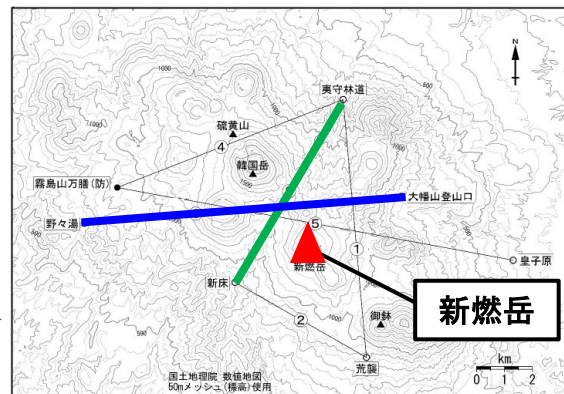
5月以降の主な状況

GNSS 霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていたが、2025年12月中旬頃からは停滞。同基線では2025年7月上旬に噴火活動に対応すると考えられるわずかな縮みがみられた(緑矢印)。新燃岳付近の地下における膨張を示すと考えられる基線の伸びは、2025年7月以降は認められない。



新燃岳付近 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年6月18日)

※橙色の破線は2024年8月8日の日向灘の地震による変動を示す



霧島山 GNSS 連続観測による基線長変化(2017年1月~2026年6月18日)

※橙色の破線は2024年8月8日、2025年1月13日の日向灘の地震による変動を示す